

# 「2019 ISS-OUP Prize」 授賞論文

## 紹 介

東京大学社会科学研究所は、日本社会の社会科学研究の国際的なハブ拠点としての役割を果たすことをその使命のひとつとして考えている。その役割を担う事業の一環として、日本社会に関する社会科学研究についての専門的英文査読付き雑誌である Social Science Japan Journal (SSJJ) の編集委員会を所内に設置し、1998 年からオックスフォード大学出版局 (Oxford University Press) と雑誌を刊行している。SSJJ は、1998 年 4 月の創刊号 (第 1 巻第 1 号) 以来、年 2 回の定期刊行物として、2020 年 3 月現在、第 23 巻第 1 号 (通巻 45 号) が刊行されている。SSJJ は、①一般投稿論文、②サーヴェイ論文、③書評論文、④書評の 4 つの分野から構成されている。一般投稿論文は、社会科学の諸分野の第一線の研究者による日本社会に関するオリジナルな論文である。サーヴェイ論文では、ある特定のテーマについての最新の研究状況の紹介などを行う。書評論文としては、日本語と外国語の書籍それぞれについて 1,500 ワードほどで通常の雑誌よりも長めの書評を掲載している。SSJJ は、2009 年 2 月より Social Science Citation Index (SSCI) に掲載されており、名実共に世界的な日本研究に関する雑誌としての地位を築いている。

さて、東京大学社会科学研究所 (ISS) とオックスフォード大学出版局 (OUP) は、2002 年度から「ISS-OUP Prize」を設置し、当該年度に SSJJ に掲載された論文のなかで最も優れたものを顕彰する事業を開始した。選考過程について簡略に説明すると、編集委員会において 3 本の候補論文を決定し、これら 3 本の候補論文について国際エディトリアルボード (約 30 名) から最優秀論文の推薦を受けたあと、編集委員会で授賞論文を最終決定する。

今回紹介する論文は、2019 年度「ISS-OUP Prize」授賞論文である、Nana OISHI and Iori HAMADA, "Silent Exits: Risk and Post-3.11 Skilled Migration from Japan to Australia," Social Science Japan Journal Vol. 22, No. 1, Winter 2019, pp. 109-125 である。先進国からの熟練労働者の海外移住は、より良いライフスタイルを求めているためであるという従来の説とは対照的に、本研究では東日本大震災と福島第一原子力発電所の災害によって顕在化した現在と将来のリスクが、移住決定の要因となっていたことを明らかにしている。経済および教育に関する将来見通しに対する懸念は、より豊かな国への移住の背後にある伝統的な経済的動機とさほど変わらないと主張することができのかもしれないが、単に日本の経済的および社会的問題のみならず、不確実性と政治意識を強調している

点は本稿の特徴である。なお、SSJJ の活動や本論文の授賞理由については、東京大学社会科学研究所 SSJJ のホームページ (<https://www.iss.u-tokyo.ac.jp/publications/index.html>) とオックスフォード大学出版局の SSJJ ホームページ (<https://academic.oup.com/ssjj>) をご覧いただきたい。また、本授賞論文の引用に際しては、SSJJ に掲載された原論文の方を引用して頂きますよう、お願い致します。

SSJJ 編集長 Gregory W. Noble